

第10回研究企画調整会議研究運営部会 議事概要

(注：本会議は個別具体の研究者や研究課題名に言及した議論が行われることから、非公開で行った。

本会議概要についても、それらが特定されない形での公表とする。)

1 日時：平成24年2月8日(水) 10:00~17:20

2 場所：食品安全委員会22階中委員会室

3 出席者(8名)五十音順

圓藤 陽子(独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院
勤労者医療総合センター・産業中毒センター長)

尾崎 博(国立大学法人東京大学農学部教授)

鬼武 一夫(日本生活協同組合連合会組織推進本部安全政策推進室室長)

熊谷 進(食品安全委員会委員長代理)

小泉 直子(食品安全委員会委員長)

品川 邦汎(岩手大学特任教授)

長尾 拓(食品安全委員会委員)

◎廣瀬 雅雄(食品安全委員会委員)

(◎：座長)

4 欠席者(0名)

4 議題

(1) 中間評価のヒアリング審査について

(2) その他

5 議事

(1) 中間評価のヒアリング審査について

食品健康影響評価技術研究の継続課題(平成22年度採択課題8課題、平成23年度採択7課題、合計15課題)のうち、2月6日に実施したものの以外の平成22年度採択課題3課題、平成23年度採択5課題、合計8課題についてヒアリング審査を実施した。

ヒアリングは1課題につき、実施課題の主任研究者による発表20分、質疑応答10分、評価委員間の議論5分、評価票記入5分、の合計40分で行った。

ヒアリング審査の実施の概要は以下のとおり。

① 課題番号1106 主任研究者 吉田優

「食品中のアルミニウムの神経発達系への影響など、新生児発育に対するリスク評価研究」

・妊娠マウスへのアルミニウム暴露実験での死亡原因やデータの解釈、アルミニウム測定法について議論があった。

② 課題番号1103 主任研究者 松永洋志

「肝臓キメラマウスを用いたヒト型代謝プロファイルの外挿によるリスク評価手法の開発」

・肝臓キメラマウスの毒性試験への使用方法、キメラ率、安定供給について議論があった。

- ③ 課題番号 1006 主任研究者 小川久美子
「グリシドール脂肪酸エステルおよび 3-MCPD 脂肪酸エステルの安全性評価に関する研究」
・ラットへの脂肪酸エステル類の反復投与毒性試験結果、マウスの死亡率について議論があった。
- ④ 課題番号 1104 主任研究者 西川秋佳
「ラットにおける遺伝毒性・反復投与毒性併合試験法の開発」
・動物へのレポーター遺伝子挿入部位解析と研究との関係、各種試験の解析結果が出る時期について議論があった。
- ⑤ 課題番号 1001 主任研究者 森寿
「遺伝子発現モニターマウスを用いた発達期脳に対する化学物質暴露影響評価法の開発」
・投与した農薬の選定理由、投与方法や慢性毒性について議論があった。
- ⑥ 課題番号 1009 主任研究者 平田健一
「トランス脂肪酸による動脈硬化性疾患の発生機序の解明と健康影響評価手法の確立」
・トランス脂肪酸量測定食材の選定方法や採血した冠動脈患者の投薬歴の影響について議論があった。
- ⑦ 課題番号 1102 主任研究者 圓藤吟史
「アルセノシュガー、アルセノリピッドを含有する食品摂取による健康リスク評価」
・アルセノシュガー、アルセノリピッドの合成の見込み、食品摂取ボランティアにおける検査結果のバラツキについて議論があった。
- ⑧ 課題番号 1101 主任研究者 五十君静信
「食品を介するリステリア感染症に係わる高病原性リステリア株の評価と生体側の要因を加味した食品健康影響評価に関する研究」
・食品由来株と患者由来株について食べた食品と患者のリンクの有無について議論があった。

2月6日及び2月8日のヒアリング審査に基づく評価結果及び書面による審査に基づく評価結果については、中間評価用の評価票に各評価者が記載し、事務局を通じて調査・研究企画調整会議に報告することとなった。

以上